

BS-TBS

奈良ふしぎ旅図鑑 其の249 平城宮跡のふしぎ

令和4年(2022)5月18日放送

奈良の歴史を物語る神社仏閣、歴史、風土、千三百年紡がれてきた人々の営みなどを中心に、「奈良のふしぎ」をピックアップしてお届けしています。

今から1300年前に日本の都がおかれた奈良。今回訪れたのは、かつては都の中心地で、世界遺産にも登録されている「平城宮跡」。広々とした敷地の北に建つのは、第一次大極殿。“大極”とは北極星のことを表す言葉なのだ。そして、この平城宮跡には、遺跡としては珍しい風景が…敷地の中を電車が走っている！？一体なぜ…？

線路が引かれた大正時代、この一帯は田んぼや畑が広がっていた。(右写真)

ただ、奈良時代の後半に建てられた第2次大極殿の跡は平城宮の名残をとどめていた。ここは「大黒の芝」といわれて地元では大切な場所として守られていた。(右下写真)

線路を敷くとき、鉄道関係者たちは進路をこの場所を避けて決定した。線路布設後、宮跡が調査され更に広いことがわかってきた。当時は平城宮跡の正確な位置が不明だったため結果的に敷地内を線路が通ってしまった

散策した後は、奈良時代の宮廷料理を再現した「天平の宴」をばくばく！

BS-TBSにて放送中！



ふしぎ案内人：吉岡里帆さん



整備される以前の平城宮跡

写真：岡田庄三氏



大黒の芝と云われていた場所

昭和38年(1963)
(上)

昭和40年(1965)
(右)

写真：岡田庄三氏

